

ぞうさん広場

vol.11
2017春号



インタビュー
特集

2つの専門外来「摂食嚥下専門外来」と
「甲状腺外科外来」で地域医療を担う
堺市立総合医療センターの
耳鼻咽喉科・頭頸部外科

看護師の活動紹介
認知症ケアチーム

コメディカルの紹介
臨床心理士

最近の出来事
災害訓練を行いました!

がんセンター特集
堺市がん患者と家族の会「よりそい」

チーム医療の活動
栄養サポートチーム(NST)

登録医紹介
こんにちは赤ちゃん
健康食のススメ

ぞうさん広場

第11号 平成29年3月1日発行

発行 堺市立総合医療センター 〒593-8304 大阪府堺市西区家原寺町1丁目1番1号 ☎ 072-272-1199(代)

こんにちは赤ちゃん/
当センターでたくさんの赤ちゃんが生まれています!



真(しん)くん
平成28年11月2日生

♥welcome♥

真くん、お腹の外の世界に慣れてきましたか?これからみんなで楽しく過ごしていこうね!



大真樹(たまき)くん
平成28年11月10日生

♥welcome♥

わが家に産まれてきてくれてありがとう!家族みんなたまきくんが大好きです!みんなでいっぱい遊ぼうね!すくすく元気に育ってね!



圭(とい)ちゃん
平成28年11月11日生

♥welcome♥

といの笑顔に家族みんな、幸せな気持ちになっています!産まれてきてくれてありがとう!!これからも元気に育って行ってね!



和花(のどか)ちゃん
平成28年12月8日生

♥welcome♥

のどかちゃん、あなたに会える日を家族みんなが心待ちにしていました。穏やかで心の温かい子に育ってね。

健康食のススメ

骨粗しょう症
予防に

さばと菜の花の 豆乳ごま味噌煮

骨の材料となるカルシウムは、乳製品、魚介類(骨ごと食べられる魚、桜えびなど)、大豆製品、青菜に多く含まれます。カルシウムの吸収を助けるビタミンD(鮭、さんま、鯖などの魚やきのこに多い)や、カルシウムの骨への沈着を促進するビタミンK(青菜、納豆に多い)も一緒に食べましょう。

栄養価(1人分)

エネルギー	280kcal
塩分	1.5g
カルシウム	400mg



材料(2人分)

さば水煮缶	1缶(200g)	無調整豆乳	1/2カップ
菜の花	1/2束	水	1/4カップ
しめじ	1/2パック	みそ	大さじ1/2
しょうが	1/2かけ	酒	大さじ1
		砂糖	小さじ1
		すりごま	大さじ1

- 【作り方】
- 菜の花は水洗いし、電子レンジ(600W)で1分半加熱後、水にさらし、絞って5cm程度に切る。しめじはいしづきを切って、小房に分ける。しょうがは千切りにする。
 - 鍋にAと①、さば水煮缶(汁ごと)を入れて煮る。しめじに火が通ればできあがり。

栄養管理科 田中 雅子

2つの専門外来「摂食嚥下専門外来」と「甲状腺外科外来」で地域医療を担う 堺市立総合医療センターの 耳鼻咽喉科・頭頸部外科

教えて！
病院のお仕事

近隣の医療機関では、対応が難しいとされる嚥下障害への手術治療。困難な症例にも積極的に取り組む、耳鼻咽喉科・頭頸部外科の長井医師にお話を伺いました。



耳鼻咽喉科・頭頸部外科部長
長井 美樹 医師

「地域医療連携については、患者さんが地域で最後まで過ごせる在宅医療が推進されています。今まで外来診療だけされていた先生方も積極的に在宅医療に携わっていただきます。人間は寝たきりになると、誤嚥が起こってきます。そうなる前に当院に来ていただければ、歯科口腔外科医、言語聴覚士、管理栄養士と連携して、手術だけでなく食べ物や飲み物の相談などにも適切に対応することが出来ます。また、「嚥下造影検査」という専門的な検査を受けてもらえる体制も整えています。「摂食嚥下専門外来」は地域連携なくしては成り立たない外来なので、地域の先生に当院の特色を知っていただくために、挨拶に伺う等しています。

堺市立総合医療センターの耳鼻咽喉科・頭頸部外科で扱う疾患は？

総合病院で働く私たちの仕事の中心は「入院患者さんの手術治療」です。対象は手術をしないと嚥下（食べたり飲んだりすること）ができない重症な扁桃炎や合併症のある突発性難聴、顔面神経麻痺などです。外来には診療所では対応困難な患者さんが多く来られ、地域の総合病院としての耳鼻咽喉科・頭頸部外科領域のあらゆる症例に対応します。特に多いのは甲状腺ですが耳下腺、顎下腺など頭頸

部外科領域である腫瘍（身体の表面や中にできるかたまり）の診断から手術治療、また重症の嚥下障害に対する手術や鼻の内視鏡手術も多く行っています。緊急の気管切開手術が必要になる深頸部感染症などにも対応しています。

特長や強みは何ですか？

「地域の先生方からの紹介の予約枠を多く設定（1日8枠）している」こと、そして午後の診療時間帯に2つの専門外来「摂食嚥下専門外来」と「甲状腺外科外来」を設置していることです。基本的に紹介患者さんは、初診日に検査からお



地域医療連携についてはいかがですか？

現在、患者さんが地域で最後まで過ごせる在宅医療が推進されています。今まで外来診療だけされていた先生方も積極的に在宅医療に携わっていただきます。人間は寝たきりになると、誤嚥が起こってきます。そうなる前に当院に来ていただければ、歯科口腔外科医、言語聴覚士、管理栄養士と連携して、手術だけでなく食べ物や飲み物の相談などにも適切に対応することが出来ます。また、「嚥下造影検査」という専門的な検査を受けてもらえる体制も整えています。「摂食嚥下専門外来」は地域連携なくしては成り立たない外来なので、地域の先生に当院の特色を知っていただくために、挨拶に伺う等しています。

開業医の先生方や地域の皆さんにメッセージをどうぞ。

甲状腺や嚥下だけでなく、首が腫れたり鼻がつまっていたり、耳鼻科領域でお困りのことがあれば、ぜひ当院へご紹介・ご来院ください。私の得意なことを患者さんに還元していきたいですし、急性期病院ならではの専門的なスタッフが在籍していますので、地域の皆さんのお力になれると思います。

およその診断まで迅速に行うよう心がけています。

また、嚥下障害の手術対応と甲状腺専門医・内分泌（甲状腺）外科専門医である私自身が初診から手術、術後の外来まで一貫して担当する体制が強みです。これらの専門外来は完全予約制で午後に行っていますので午前よりも混雑がなく、落ち着いた環境で診療できるメリットがあり、患者さんにも非常に好評です。

嚥下障害の手術治療についてお聞かせください。

現在、嚥下障害の治療はリハビリテーションが中心となっており、当院のように嚥下障害の手術に対応できる医療機関が少ないのが現状です。代表的な手術に「誤嚥防止手術」があります。高齢者に多いのですが、食べ物などが何らかの理由で誤って気管に入ってしまう「誤嚥」をなくすための手術です。肺炎を防げるだけでなく、痰が減ることで介護者の負担



甲状腺・副甲状腺疾患にも力を入れておられますね。

甲状腺だけで専門病院ができるぐらい、患者さんの多い臓器ですので、当院でも特に力を入れています。私の専門分野でもあり、これまで数多くの症例を経験してきました。内科的・外科的その両方の知識を持っていますので、専門的な診断・治療をすることができます。

今後の目標・課題は？

甲状腺に関連する患者さん



チーム医療を支える コメディカル

コメディカルとは医師と看護師以外の医療従事者のことで、それぞれの専門分野で医療に携わっています。医師・看護師とチームを組み、よりよい医療の提供のために欠かせない存在です。

臨床心理士

多くの方が、身体の不調で当院を受診されますが、からだの不調と切っても切り離せないのが、「こころの不調」です。からだの不調がこころに影響したり、逆に「こころ」の不調がからだの症状としてあらわれたり、こころとからだは連動しています。私たちは、患者さんやご家族の「こころ」にアプローチし、よりよい生活を送れるようお手伝いをする医療スタッフです。

臨床心理士とは？

臨床心理学に基づく知識や技術を用いて、「こころ」に関わります。一人ひとりの価値観を尊重しながら、問題のある今の状態を改善したり、なりたい自分になれるようお手伝いをしたりする専門家です。当センターの臨床心理士は、主に小児科の患者さんやご家族に関わることが多いほか、緩和ケアチームなど医療チームとも連携し、幅広いニーズに対応しています。

今回は「心理検査」「カウンセリング」の2つを取り上げます。

仕事例① 心のなかを探る心理検査

専門的な方法で、患者さんのこころの状態を調べます。描いてもらった絵などから、ストレスや対人的な問題を読み解いたり、質問やパズルなどを用いて、子どもの発達の状況や問題を調べたりします。これらの検査をすることで、臨床心理士のみならず、他の医療スタッフ、そして患者さんにこころの状態を共有できるようになります。こころの不調を引き起こしている問題を客観的に捉えることで、治療目標を明確化できるようにしていきます。



仕事例② 問題改善を図り変化や成長を促すカウンセリング

不登校や発達障害、長期入院の小児患者さんやご家族の相談に乗ったり、家族や職場の問題に悩みながら闘病されている患者さんの相談に応じたりしています。

心理検査などで明らかになったこころの状態や問題について、患者さんと深く話し合うことにより、問題の改善を図り、こころの変化や成長を促します。言葉で話すのが難しい患者さんには絵を描いてもらったり、軽い作業をしてもらったり、またお子さんとは一緒に遊んだりしながら、カウンセリングを進めていきます。



臨床心理士は常に、医師や看護師、その他のコメディカルスタッフと一緒に、患者さんに携わっています。臨床心理学的な知見を共有することで、こころの通った医療サービスの向上にも努めています。よりよい心理的サービスを提供できるよう、日々研鑽を重ねています。



団塊の世代が75歳以上の後期高齢者となる2025(平成37)年に向け、少子高齢化はますます進んでおり、急性期病院に入院してきた高齢者が認知症だったということは珍しくなくなってきました。

当センターに入院される患者さんのじつに50.8%が65歳以上の高齢者の患者さんです。そこで、認知症患者さんが急性期病院でも認知症の症状を悪化させずに治療を受けることができるよう、当センターでは「認知症ケアチーム」が中心となり専門的なケアに取り組んでいます。今回は、その「認知症ケアチーム」の活動についてご紹介します。

認知症ケアチームの役割

「認知症ケアチーム」メンバーは、精神看護専門看護師、脳卒中リハビリテーション看護認定看護師、専門的な認知症に関する研修を修了した看護師で構成されています。主な活動は、認知症患者さんを対象に開催している「院内デイケア」の実施と看護師全体の認知症ケアの向上を図る教育活動です。

「院内デイケア」がめざすケアは“患者さんの生活リズムに配慮した環境づくり”

入院による環境の変化は、認知症高齢者の行動・心理症状を悪化させる要因になると言われています。治療が優先となる急性期病院では、治療に伴う行動の制限から、患者さん自身がチューブ類を抜去しようとしたり、安静が必要な時期に離床したり、処置を拒否するなどの「せん妄」状態を引き起こすことも珍しくありません。それらの行為が認知症の症状の悪化に繋がり、治療が長引く原因となってしまいます。

そこで当センターでは、急性期病院で治療を受ける認知症患者さんに対して、今まで暮らしてきた生活そのものを重視したケアを提供するために、平成28年7月から院内デイケア「手作り工房 楽(らく)」を開催しています。

院内 デイケアの 目標

- ① 患者さんの生活リズムの再構築によって精神的な安寧をもたらし、治療や回復過程を円滑に進める
- ② 患者さんが他者と触れ合う機会を持つことで、精神的および身体的QOL(生活の質)、ADL(日常生活動作)の維持向上をめざす

患者さんと作成した院内デイケアの看板▶



院内デイケアは週2回(水曜日・金曜日)2時間で、認知症ケアチームと病棟看護師の2名で実施しています。季節を感じる工作、風船バレーなどのゲーム、DVD鑑賞、童謡を聴く、タオル体操など、患者さんの状態に応じたプログラムを実施しています。開始から、延べ84名の患者さんが院内デイケアを利用されました。座位で過ごすことが可能になれば、点滴やチューブをされた状態の患者さんも参加されるといった光景は、急性期病院ならではの院内デイケアの様子です。



早期に急性期病院から地域へ生活をつなげるケアをめざして

高齢化が加速している現在、急性期病院に入院する認知症高齢者は今後さらに増加していくと思われます。このような背景のもと、当センターでも地域との連携にも積極的に取り組み、認知症患者さんのケアの質向上に向けた看護を行っていききたいと思います。

認知症ケアチーム 糟谷 恵子

平成28年度 堺市立総合医療センター 災害訓練を行いました!

平成29年1月14日(土)に平成28年度堺市立総合医療センター災害訓練を行いました。今回の訓練は、上町断層帯を震源とする震度6強の地震が堺市内で発生したと想定したものです。各部門に分かれて連携し、多数の傷病者の受け入れを実動訓練にて実施しました。

訓練の流れ

- 12:55 上町断層帯を震源とする堺市内震度6強の地震発生
- 12:57 災害対策本部の立上げ
被災状況の確認
- 13:10 傷病者を受け入れるため、
災害対応モードへの切り替え指示
- 13:30 堺市立総合医療センター内にDMAT本部立上げ
- 14:01 地震による傷病者1人目来院
- 15:05 災害対策本部会議開催(1回目)
- 16:00 災害対策本部会議開催(2回目)
- 16:30 訓練終了

おつかれさまでした!

主な部門の紹介

災害対策本部

災害対策本部は、院内外のさまざまな情報を管理し、災害対応の意思決定をおこなう部門です。続々と集まってくるたくさんの情報をホワイトボードやパソコンなどを使い、情報共有しやすいように掲示・記録します。災害対策本部長(本訓練においては院長)の指示のもと、各部門は、医療救護活動を行いました。

災害対策本部会議の様子



参集した職員に
役割を付与する様子

情報収集・共有の様子



トリアージ部門

当院は、多数の傷病者が発生していると判断した場合、災害対応モードへと切り替え、トリアージ部門などを設置し特別な体制で医療救護活動します。「トリアージ」とは、傷病者の重症度、緊急度などによって治療の優先順位を決定することです。トリアージを実施した後に各部門にて治療が行われます。



重症処置部門

トリアージにおいて、重症度、緊急度が最も高いと判断された傷病者を治療する部門です。必要に応じて手術などを行います。重症度、緊急度の高いこの部門に人員をかけて対応することが重要となります。



今回の災害訓練には職員のほか、堺市消防局、大阪府看護協会、浅香山看護専門学校、東洋医療専門学校の学生などが参加しました。見学者も含めると約250名の方にご参加いただきました。今後も起こり得る大規模災害に備え、災害拠点病院として訓練、研修会等を行ってまいります。



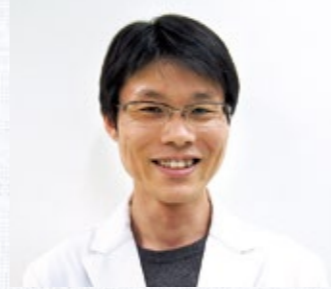
当院の登録医の先生をご紹介します



北区南花田町
医療法人
藤田医院
藤田 聖子 副院長



西区浜寺諏訪森町
富山耳鼻
咽喉科医院
富山 要一 院長



西区津久野町
こにし小児科・
アレルギー科
小西 芳樹 院長



堺区熊野町
塚田内科
クリニック
塚田 敏 先生

◆**当院の特長**
開業から約50年、親子二代で地域に根差した診療を続けています。専門は循環器内科ですが、枠にとらわれず、総合的な診療を行っています。生活習慣病から身近な病気まで、受診される患者さんはさまざまです。月に2回のペースで内視鏡の専門医による胃カメラ検査も行っています。さらに、当院では健康教室やミニコンサートなど、診療以外の部分でも地域の皆さんとのふれあいを大切にしています。

◆**私の診療モットー**
日進月歩の発展を遂げる医療のなかから最適なものを患者さんに

◆**当院の特長**
父親の後を継ぎ地域に密着した医院として、患者さんに寄り添った診療を続けています。古くからある土地なので高齢者が多く、難聴の診察で来られる方が多いです。昔からある町の医院だからこそできる、気楽に話せる雰囲気づくりを大切にしています。

◆**私の診療モットー**
時代の流れとともに医療技術はどんどん進歩を遂げていますので、耳鼻科の勉強会には積極的に参加しています。今の技術でどこまでの治療ができるのかを把握するために、最先端の情報を知っておくこと

◆**地域の皆さんへのメッセージ**
常に「患者さんファースト」で、心のこもった診療を心がけております。地域に根差したホームドクターとして、患者さんの不安・悩みを解消していきたいと思っておりますので、どんなことでも相談してきてください。

◆**地域の皆さんへのメッセージ**
難聴などのように、加齢とともに出てくる病気が完治が難しい場合があります。ですから、少しでも進行を遅らせて患者さんの症状・痛みを和らげるよう対応しています。これからも町の医者として地域に根ざした医療に力を入れて、患者さんのお役に立ちたいと思っています。

◆**当院の特長**
医師、看護師に加え、保育士、栄養士が在籍し、多職種連携で医療を行なっています。保育士は乳児健診後の保育相談を行ったり、待ち時間で退屈しない工夫をしたり、季節のイベントでも力を発揮しています。栄養士は食物アレルギーの患者さんへのレシピの提案や栄養の偏りがなかなどの栄養相談を行っています。また、当院では診察後にカルテの写しをお渡しし、帰宅後、診療の内容をご家族でご確認いただけるようにしています。

◆**私の診療モットー**
患者さん、親御さんが納得して治療を受けていただくために、病気の原因やきっかけを理解してくださるよう、丁寧に説明することを心がけています。小児科では特に親御さんに理解していただくことがとても大切だと考えています。アレルギー疾患につきましても、原因対策が症状の改善につながる場合がありますので、できるだけ原因にこだわった治療を行なっています。

◆**地域の皆さんへのメッセージ**
地域の皆さんに愛されるクリニックをめざして、日々患者さんの診療を行っています。これからも努力を重ね、地域の皆さんに還元できるようにスタッフ一同がんばります。

◆**当院の特長**
当院は68年前に祖父が開院し、私で三代目となる地域に根差したクリニックです。循環器内科が専門で、高血圧や心疾患関連を得意としています。また、高齢化により認知症患者さんも増えていますので、身近な場所でも認知症の初期対応ができるように、診療体制を整えています。さらに、リハビリテーション施設を併設しており、病院施設と同レベルの質の高いリハビリの提供もしています。

◆**私の診療モットー**
仕事の分担・分業をきちんとすることとをモットーに診療にあたっています。私で対応できない場合は治療できる

先生にお願いし、他の病院で治療が難しかった患者さんが当院にきて、私ができる治療方法で喜んでいただけたら嬉しいです。親身になることも大切ですが、やはり病気を治すのが医師の仕事。「治療」を第一に考えたとき、深追いついて患者さんをいつまでも引き止めに無理のない治療を心がけています。

◆**地域の皆さんへのメッセージ**
地域の皆さんが健康で長生きしてくだることが一番の願いですが、どうしても病気になるときはあります。その際は、早期発見・早期治療が大切です。そのお手伝いができればと思いますので、いつでもお気軽にご相談ください。



診療科目 / 内科、小児科、循環器科、消化器科、放射線科
堺市北区南花田町302-14
★御堂筋線「北花田駅」より徒歩約15分
TEL:072-251-4110
http://fujita-cl.net/

診療時間	月	火	水	木	金	土	日
9:00~13:00	○	○	○	○	○	○	△
17:30~19:30	○	○	○	○	○	○	△



診療科目 / 気管食道科、耳鼻咽喉科
堺市西区浜寺諏訪森町中1-112-3
★南海本線「諏訪ノ森駅」より徒歩約3分
TEL:072-265-3387

診療時間	月	火	水	木	金	土	日
9:00~12:00	○	○	○	○	○	○	△
17:00~19:00	○	○	○	○	○	○	△



診療科目 / 小児科、アレルギー科
堺市西区津久野町1-20-1 津久野メディカルビル2F
★JR阪和線「津久野駅」より徒歩約5分
TEL:072-349-6100
http://konishi-kids-allergy.jp/

診療時間	月	火	水	木	金	土	日
8:30~12:00	○	○	○	○	○	○	△
14:00~16:00	○	○	○	○	○	○	△
16:30~19:00	○	○	○	○	○	○	△

○一般外来 ●アレルギー専門外来(木・土は第2・4週のみ) △ワクチン・乳児健診



診療科目 / 内科、循環器科、消化器科、認知症
堺市堺区熊野町東3-1-27
★南海本線「堺駅」より徒歩約8分
TEL:072-233-6933
http://www.tsukada-naika-clinic.com/

診療時間	月	火	水	木	金	土	日
9:00~13:00	○	○	○	○	○	△	△
17:00~19:30	○	○	○	○	○	○	△

△土曜日は9:00~12:00

医療チームの活動

NST(栄養サポートチーム)

NSTとは、Nutrition Support Team(栄養サポートチーム)の略で、患者さん一人ひとりに対して適切な栄養管理を実施するために、医師、歯科医師、看護師、薬剤師、管理栄養士、臨床検査技師、言語聴覚士などの多職種で形成されたチームです。当院のNSTは、平成15年に始動し、現在、日本静脈経腸栄養学会と日本栄養療法推進協議会からNST稼働施設として認定されています。栄養管理はすべての治療の基盤であり、患者さんを傷病の状態から治療に導くための土台となるものです。適切な栄養管理により治療効果の向上も期待でき、予後が改善されます。今回は、当院のNSTの主な活動内容をご紹介します。



その1

◆NST回診◆

急激な体重減少、食事摂取量の低下、顕著なやせなど、栄養状態に問題のある患者さんを主な対象として、各病棟を週1回のペースでNSTが回診しています。

回診では、病状、体重、摂取栄養量、血液検査結果、診察所見などから栄養評価を行い、必要な栄養量が摂取できるように、点滴や食事内容の調整だけでなく、嚥下(飲み込み)機能や口腔ケアの面からも主治医・担当医に提案を行い、患者さんのサポートに努めています。

例えば、食事摂取が進まず必要栄養量が充足できていない患者さんには、病態にあった栄養補助食品を提案します。回診時に希望があれば栄養補助食品を試食、試飲していただき、患者さんの好みにあったものを選定しています。

また、口から食べられず、主な栄養を点滴で行っている患者さんにおいても、摂取栄養量を確認し、学会のガイドラインに従って主治医に提案をしています。



その2

◆嚥下回診・嚥下検査の実施◆

安全に食事を摂取するためには、患者さんの嚥下状態を把握することが大切です。食べたときの食物の流れは外からでは分かりにくく、特にムセのない誤嚥(物が気管内に入ること)や咽頭残留(のどに食べ物が残ってしまうこと)を発見するのは難しいため、造影剤や内視鏡を使って嚥下機能に問題がないかの検査を実施しています。

その検査により、誤嚥や咽頭残留の有無、患者さんに適した食形態や体位などを評価し、実際の食事や訓練に役立てています。



その3

◆職員の教育◆

院内の知識レベル向上のため年1回以上の院内学習会を開催し、情報共有を図るため定期的に院内報「NSTニュース」を発行しています。また、外部講師を招いて講演会を行ったり、毎年、多数の演題を学会で発表したりするなど、活動の報告を院外でも行っています。



「よりそい」の参加者について

現在、100名を超える方が入会しています。堺市だけでなく、近隣の市町村在住の方が入会されており、がんの種類もさまざまです。堺市内に在住もしくは医療機関に通院している患者さんやご家族の皆さんにご入会していただけます。「堺」をキーワードに、病院やがんの種類垣根を越えた集いです。

ピアサポーター養成研修▶



こんな活動をしています!

患者会総会を毎年1回、定例会を2ヶ月に1回各医療機関にて開催しています。定例会では、講演会と交流会「よりそいカフェ」を実施しています。不定期ですが、会員からのリクエストに応えた講演会や施設見学なども行っています。また、会報の発行やホームページの運営をしており、積極的に情報発信をしています。患者会独自で、ピアサポーター(同じような体験をした仲間同士のサポート)養成研修を行い、研修修了者は、患者サロンや講演会等で活動しています。



▲患者会会報

入会するためには…

各医療機関のがん相談支援センター、堺市健康医療推進課の窓口で、入会の手続きを受け付けています。定例会などでご入会いただくことも可能です。また、患者会のホームページに入会申し込みのページがありますので、ご利用ください。
(<http://yorisoisakai.wixsite.com/sakaishigankanjakai>)

【問い合わせ先】

- ・患者会事務局 yorisoi.sakai@gmail.com
- ・堺市健康医療推進課
- ・大阪労災病院 メディカルサポートセンター
- ・堺市立総合医療センター がん相談支援センター
- ・近畿中央胸部疾患センター 相談支援センター
- ・ベルランド総合病院 医療福祉相談室

平成28年度の活動

月日	内容(定例会、イベント等)
4月12日(火)	バスツアー『兵庫県立粒子線医療センター見学』
5月29日(日)	患者会総会(堺市産業振興センターにて)
7月24日(日)	定例会(堺市立総合医療センターにて) 講演会『患者によりそうがん治療』
8月21日(日)	講演会(堺市総合福祉会館にて) 『がん対策における市民の患者・市民の役割』 よりそいカフェ『“がん”について“みんなの声”でつながる会』
9月11日(日)	定例会(近畿中央胸部疾患センターにて) 『新しいがん治療～免疫チェックポイント阻害剤の可能性～』
11月13日(日)	定例会(大阪労災病院にて) 『がん疼痛について』
1月8日(日)・15日(日)	ラジオ出演(文化放送) 『キャンサーカフェ』 パーソナリティ/理事長 門田 守人・石川 真紀さん
1月22日(日)	定例会(ベルランド総合病院にて) 『あなたとあなたの大切な人の未来のために～緩和ケアがあたりまえの世界をめざして～』
2月19日(日)	講演会(大阪労災病院看護学校講堂にて) 『大切な人の想いととも』 アナウンサー/清水 健さん
3月12日(日)	講演会(堺市産業振興センターにて) 『がん哲学外来へようこそ』 順天堂大学/樋野 興夫さん



▲患者会総会

が ん セ ン タ ー 特 集

堺市がん患者と家族の会「よりそい」

堺市がん患者と家族の会「よりそい」とは平成26年度公募型協働推進事業として始まり、平成27年3月22日にスタートしました。「よりそい」は、堺市健康医療推進課、堺市内のがん診療連携拠点病院等である大阪労災病院・堺市立総合医療センター・近畿中央胸部疾患センター・ベルランド総合病院それぞれが協力して運営しています。患者さんや行政、医療機関の三者が連携を強め、地域全体を対象に、患者さんを含む市民の視点に立った支援を行うことで、市民ががんになっても安心して暮らせるまちづくりをめざしています。